

令和 4 年 6 月 17 日現在

機関番号：31310

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2021

課題番号：18K02161

研究課題名(和文) 精神障害者の就労支援におけるゴールドスタンダードの確立に関する実証研究

研究課題名(英文) Empirical research on establishing a gold standard in employment support for people with mental illness

研究代表者

森谷 就慶 (Moriya, Yukinori)

東北文化学園大学・医療福祉学部・教授

研究者番号：80382696

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、精神障害者の就労支援におけるサービスを、ストラクチャー、プロセス、アウトカムの3側面から把握し、精神障害者の就労支援におけるサービスの標準化『ゴールドスタンダード』を検討することを目的とした。

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に対する緊急事態宣言にともない、十分な追跡期間と追跡者数を確保することが困難であった。精神障害者の就労支援では、福祉サービスと契約を行う新規利用者が減少しており、支援を行う就労支援事業所の時間的・経済的な困難が大きいため、一般就労を開始する者の減少についても、就労先である事業者と同様の課題があることが推測された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

精神障害者の就労支援におけるサービスを、ストラクチャー(施設基準・組織体制、関連職種の人員配置、診療報酬、障害福祉サービス等の報酬など)、プロセス(ケアプランの実施状況、ケア会議の実施状況、リスクアセスメントの実施頻度など)、アウトカム(就労；一般就労、保護的就労、復職など)の3側面から把握することは、精神障害者の就労支援にサービスの科学的かつ合理的な標準化に繋がる。精神保健福祉分野の『ゴールドスタンダード』を確立していくことは、今後の精神障害者の就労支援を大きく進ませる可能性がある。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study was, first, to understand the three aspects (structure, process, and outcome) of employment support services for persons with mental disabilities. The second was to establish a standardization of services in employment support for persons with mental disabilities.

However, the COVID-19 pandemic and the declaration of a state of emergency forced us to suspend our research activities. The number of persons with mental disabilities receiving employment supports decreased, making it difficult to ensure a sufficient sample size and follow-up period. Due to the pandemic, the number of new contractors decreased among social service providers compared to medical service providers. Furthermore, the reason for the decrease in the number of persons with mental disabilities who started general employment was presumed to be that the companies that accepted them were not proactive in accepting new employment due to infection control measures.

研究分野：社会福祉学

キーワード：精神障害者 精神障害 就労支援 就労支援プログラム ゴールドスタンダード 障害者雇用促進法  
ストラクチャー・プロセス・アウトカム 前向き介入研究

## 1. 研究開始当初の背景

精神障害者の適切な就労支援には、精神症状や生活技能のアセスメントと精神症状や生活技能に見合った科学的かつ合理的な支援（サービス提供）の検討が必要不可欠である。

これまで通所型のサービス事業者は、利用者個人毎の就労支援に力を入れているものの、利用者それぞれに提供されたサービス内容、経費、時間、支援者等について、明確な把握をしていない。優れた実践の報告もみられるが、特定の個人や一部の機関によって実施されたものであり、残念ながら広く一般的に行われているものではない。そのため精神障害者の就労支援を行う事業者や支援者に、実証的に明らかにした適正なサービス投入量を具体的に提示することが必要である。適正なサービスを、居住地や事業者に関わらず利用できることは、ステークホルダーである患者・利用者、さらには国民にとっても重要であると考えられる。

医療分野では、標準的に確立した検査法や手技、手法、確立した実績のある治療法は『ゴールドスタンダード』とよばれており、もっとも理想的で信頼性が高いとされている。ところが、福祉における支援は、一人ひとりの抱える課題が異なるためオーダーメイド型の対応に成らざるを得ず、支援内容についても比較検討が十分に行われていない。標準的な支援が確立されておらず、ともすれば独善に陥る可能性がある。アウトカムについて十分な精査が行われることはないため、精神保健福祉分野の『ゴールドスタンダード』はない。

広く知られ用いられるようになったケアマネジメントやソーシャルワークも、福祉における専門的な技術であり、支援内容や結果について、正確な評価が下されなければならない。これまで精神障害者の就労支援は、サービス提供者の職種、サービスの内容、サービスに費やした時間等を経済的な視点からの詳細な分析が行われてきたとは言い難く、アウトカムである就労者が出て、それに至るサービス投入量は不明であり、コスト意識に欠ける面があった。そのため『精神障害者が就労するまでの適切な質と量のサービスを明らかにする』ことが、本研究の核心をなす問いとなる。適切な質と量のサービスを提供することで、より短時間で、より多くの精神障害者が就労できることに繋がる。

## 2. 研究の目的

本研究は、精神障害者の就労支援におけるサービスを、ストラクチャー（施設基準・組織体制、関連職種の人員配置、診療報酬、障害福祉サービス等の報酬など）、プロセス（ケアプランの実施状況、ケア会議の実施状況、リスクアセスメントの実施頻度など）、アウトカム（就労；一般就労、保護的就労、復職など）の3側面から把握し、今後の科学的かつ合理的な精神障害者の就労支援におけるサービスの標準化を検討することを目的としている。

具体的には前向き介入研究により、精神障害者の就労までの経過と、その間に提供される医療・福祉サービスの実態把握と客観的評価を行う、就労の有・無と提供されたサービスとの統計的関連から、より合理的な就労支援プログラムを検討する、適正かつ効率的なケアマネジメントおよびソーシャルワークを導き出し、就労支援の標準化を検討する。以上の3点を達成することにより、精神障害者の就労に必要な『適切な質と量のサービス』を明らかにし、精神障害者の就労支援の『ゴールドスタンダード』の確立を目指すことを目的とした。

## 3. 研究の方法

### (1) 調査ツールの検討・開発

精神障害者の就労支援に関し、国際生活機能分類（ICF；International Classification of Functioning, Disability and Health）を基に、精神障害者の精神症状および生活技能を簡便に測定でき、就労可能性を予測する「就労支援アセスメントツール」について報告し、精神障

害者の就労支援プログラムの開発を継続し行ってきた。そこで本研究では、精神障害者の就労支援のポイントをより強化した『精神障害者キャリアアップ・プログラム；CUP-ICF (Carrier-Up Program for people with a Mental disorders-ICF)』（森谷 他，2016）を実施した。さらに、そのパッケージである『精神障害者就労支援尺度；JSM-ICF (Job Support scale for people with a Mental disorders-ICF)』（森谷 他，2014）を「評価指標」として使用して、実証的データによる就労支援の標準化を検討した。

新規利用者のサービス「開始」から「就労」までを前向き調査で把握し、就労支援強化プログラムを設定し、就労者の有・無について比較を行った。さらに、サービス投入量を把握し介入群と非介入群の評価を行うことで、精神障害者の就労支援における『ゴールドスタンダード』の確立することを目指した。

#### （２）調査対象と方法

精神障害者の支援を行っている通所サービス機関（医療系・福祉系）の患者・利用者について郵送による質問紙調査を実施した。A県内の政令指定都市であるB市とB市近隣4市町の精神障害者の支援を行っている精神科デイケア，障害福祉サービス事業所，地域活動支援センターに対し，対象者の選定と調査表の記入を就労支援担当者に依頼した。これまで調査実施中である施設および対象者に関して，サービス・支援量の把握を行い，さらに新規登録施設を拡大，調査対象者を増加させた上で，前向き追跡調査を継続して行った。

#### （３）倫理的配慮

調査対象となった患者・利用者に対して，本研究の目的，回答内容の守秘をそれぞれの機関の就労支援担当者から説明し，同意を得た。調査票はIDを用い，匿名加工情報として取り扱った。調査票は無記名で研究代表者へ返送することとし，個人が特定されないよう配慮し，統計的に処理を行った。本研究は東北文化学園大学研究倫理審査委員会の承認を得て実施した。

### 4．研究成果

本研究は，精神障害者の就労支援におけるサービスを，ストラクチャー，プロセス，アウトカムの3側面から把握し，今後の科学的かつ合理的な精神障害者の就労支援におけるサービスの標準化を検討することを目的とした。

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に対する緊急事態宣言にともない一時見合わせていた調査を，就労支援のサービス環境を考慮しながら継続した。サービス開始からサービス終了（就労）までの間に，利用者に提供された医療・福祉サービスの詳細な利用実態把握と客観的評価等を行うため，精神障害者の就労支援理論の構築（ソーシャルワーク），身体障害・知的障害と精神障害との異動からみた就労支援理論の構築（障害科学），介護福祉サービスと障害福祉サービスとの報酬からみた就労支援サービス（介護報酬と障害報酬との異動），精神障害者の就労支援に関する費用（経済指標の検討）の視点から，研究分担者らと定期的な研究会開催を行った。

本研究期間内での前向き介入研究では，精神障害者の就労に必要な『適切な質と量のサービス』を明らかにし，精神障害者の就労支援の『ゴールドスタンダード』を確立するために十分な追跡期間と追跡者数を確保することが困難であった。しかしながら，医療・介護サービスとの比較から精神障害者の就労支援では，福祉サービスと契約を行う新規利用者が減少しており，

支援を行う就労支援事業所の時間的・経済的な困難が大きいことや、一般就労を開始する者の減少についても、就労先である事業者に同様の課題があることが推測された。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計39件（うち査読付論文 23件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 12件）

1. 著者名 齊藤隆之, 高野友哉, 高杉光之介, 岡崎和志	4. 巻 第61集
2. 論文標題 ソーシャルワーク実践における『クライアント』『家族』『ワーカー』の関係性～ストレングス視点による関わり分析～	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 福島学院大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 4-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 濃沼 信夫, 尾形 倫明, 伊藤 道哉, ほか	4. 巻 58巻Suppl.
2. 論文標題 ポリファーマシー対策による医療の質と安全の向上	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本老年医学会雑誌	6. 最初と最後の頁 199
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 千葉 宏毅, 守屋 利佳, 尾形 倫明, ほか	4. 巻 2021巻
2. 論文標題 エンド・オブ・ライフケアに関わる専門職を対象としたコミュニケーション研修前後の会話変化と患者評価に関する研究	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ヘルスコミュニケーションウィークプログラム・抄録集	6. 最初と最後の頁 43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤 道哉, 尾形 倫明, 千葉 宏毅	4. 巻 58巻Suppl.
2. 論文標題 日本ALS協会会員対象ニーズ調査における筋萎縮性側索硬化症患者の悩みと期待	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本医療・病院管理学会誌	6. 最初と最後の頁 168
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 尾形 倫明, 千葉 宏毅, たら澤邦男, ほか	4. 巻 58巻Suppl.
2. 論文標題 対人援助研修を受講したエンドオブライフケア提供者のターミナルケア態度に関する効果(その2)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本医療・病院管理学会誌	6. 最初と最後の頁 301
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 たら澤 邦男, 尾形 倫明, 森谷 就慶, ほか	4. 巻 58巻Suppl.
2. 論文標題 NDB集計データと公開データを併用したがん患者の都道府県別在宅看取り割合と医療資源等との関連に関する研究	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本医療・病院管理学会誌	6. 最初と最後の頁 172
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Fujimori Kenji, Tarasawa Kunio, Fushimi Kiyohide	4. 巻 11
2. 論文標題 Effectiveness of polymyxin B hemoperfusion for sepsis depends on the baseline SOFA score: a nationwide observational study	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Annals of Intensive Care	6. 最初と最後の頁 141
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s13613-021-00928-z	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Fujimori Kenji, Tarasawa Kunio, Fushimi Kiyohide	4. 巻 25
2. 論文標題 Effects of polymyxin B hemoperfusion in patients with sepsis requiring continuous hemodiafiltration: Analysis of a nationwide administrative database in Japan	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Therapeutic Apheresis and Dialysis	6. 最初と最後の頁 384 ~ 389
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/1744-9987.13655	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yano Kota, Moroi Rintaro, Shiga Hisashi, Tarasawa Kunio, Shimoyama Yusuke, Kuroha Masatake, Hamada Shin, Kakuta Yoichi, Fushimi Kiyohide, Fujimori Kenji, Kinouchi Yoshitaka, Masamune Atsushi	4. 巻 6
2. 論文標題 Analysis of the disease activity of ulcerative colitis with and without concomitant primary sclerosing cholangitis: An investigation using a nationwide database in Japan	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 JGH Open	6. 最初と最後の頁 50 ~ 56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/jgh3.12693	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Noda Yuki, Tarasawa Kunio, Fushimi Kiyohide, Fujimori Kenji	4. 巻 3
2. 論文標題 Drug Treatment for Patients with Postoperative Delirium and Consultation-Liaison Psychiatry in Japan: A Retrospective Observational Study of a Nationwide Hospital Claims Database	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Annals of Clinical Epidemiology	6. 最初と最後の頁 116 ~ 126
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.37737/ace.3.4_116	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 敷下千恵美, たら澤 邦男, 山本 康弘, 山根 淳一, 谷戸 祥之	4. 巻 33(4)
2. 論文標題 頸椎疾患における在院日数と診療点数への影響要因に関する研究 JOACMEQ評価スコアとDPC調査データとの関連性	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 診療情報管理	6. 最初と最後の頁 51-56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tarasawa Kunio, Fujimori Kenji, Fushimi Kiyohide	4. 巻 252
2. 論文標題 Recombinant Human Soluble Thrombomodulin Contributes to a Reduction In-Hospital Mortality of Acute Cholangitis with Disseminated Intravascular Coagulation: A Propensity Score Analyses of a Japanese Nationwide Database	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 The Tohoku Journal of Experimental Medicine	6. 最初と最後の頁 53 ~ 61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1620/tjem.252.53	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 たら澤邦男, 藤森研司, 伏見清秀	4. 巻 21 (2)
2. 論文標題 入院前の在宅医療の有無からみた入院患者の特徴と救急車搬入による入院割合に関する研究 高齢者を対象とする大規模DPCデータを活用した横断分析	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本医療マネジメント学会雑誌	6. 最初と最後の頁 70-78
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 たら澤邦男, 藤森研司	4. 巻 32 (4)
2. 論文標題 SOFAスコアの不明登録および活用に関する評価 大規模DPCデータを用いたICUへの緊急入院患者の分析	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 診療情報管理	6. 最初と最後の頁 22-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Fujimori Kenji, Tarasawa Kunio, Fushimi Kiyohide	4. 巻 12
2. 論文標題 Effects of Polymyxin B Hemoperfusion on Septic Shock Patients Requiring Noradrenaline: Analysis of a Nationwide Administrative Database in Japan	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Blood Purification	6. 最初と最後の頁 1~6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1159/000513213	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Moroi Rintaro, Tarasawa Kunio, Shiga Hisashi, Yano Kota, Shimoyama Yusuke, Kuroha Masatake, Kakuta Yoichi, Fushimi Kiyohide, Fujimori Kenji, Kinouchi Yoshitaka, Masamune Atsushi	4. 巻 36
2. 論文標題 Efficacy of urgent colonoscopy for colonic diverticular bleeding: A propensity score matched analysis using a nationwide database in Japan	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Gastroenterology and Hepatology	6. 最初と最後の頁 1598 ~ 1604
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/jgh.15316	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -



1. 著者名 Shirai Chikako, Tsuda Satoru, Tarasawa Kunio, Fushimi Kiyohide, Fujimori Kenji, Nakazawa Toru	4. 巻 21(1)
2. 論文標題 Risk factors leading to trabeculectomy surgery of glaucoma patient using Japanese nationwide administrative claims data: a retrospective non-interventional cohort study	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 BMC Ophthalmology	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s12886-021-01897-4	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤森研司、たら澤邦男、伏見清秀	4. 巻 39(3)
2. 論文標題 CHDFを施行するハイリスクな敗血症に対するPMXの効果 DPC大規模データからの検証	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本アフレス学会雑誌	6. 最初と最後の頁 190-195
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤森研司、たら澤邦男	4. 巻 2809
2. 論文標題 電子レセプトによる速報システムの有用性と課題	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 社会保険旬報	6. 最初と最後の頁 30-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Moroi Rintaro, Shiga Hisashi, Tarasawa Kunio, Yano Kota, Shimoyama Yusuke, Kuroha Masatake, Kakuta Yoichi, Fushimi Kiyohide, Fujimori Kenji, Kinouchi Yoshitaka, Masamune Atsushi	4. 巻 -
2. 論文標題 The clinical practice of ulcerative colitis in elderly patients: An investigation using a nationwide database in Japan	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 JGH Open	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/jgh3.12541	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Abe Hiroko, Hatta Waku, Ogata Yohei, Koike Tomoyuki, Saito Masahiro, Jin Xiaoyi, Nakagawa Kenichiro, Kanno Takeshi, Uno Kaname, Asano Naoki, Imatani Akira, Nakamura Tomohiro, Nakaya Naoki, Tarasawa Kunio, Fujimori Kenji, Fushimi Kiyohide, Masamune Atsushi	4. 巻 5
2. 論文標題 Prevention of delayed bleeding with vonoprazan in upper gastrointestinal endoscopic treatment	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Gastroenterology	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s00535-021-01781-4	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Sugiyama K, Tsuboya T, Okita T, Tsuchiya N, Tarasawa K, Ogata T, Yanaka S, Tomoda A.	4. 巻 Volume 3, Issue 2
2. 論文標題 Residents in a Remote Island Having Family Members in Distant Areas Showed Higher Preference for Place of End-of-Life Care: The Ajishima Study	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 JMA Journal	6. 最初と最後の頁 138-145
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.31662/jmaj.2019-0026	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 齊藤隆之	4. 巻 Vol.13, No.2
2. 論文標題 意思決定支援教育の実践	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 地域連携 入退院と在宅支援	6. 最初と最後の頁 35-40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 齊藤隆之	4. 巻 Vol.13, No.3
2. 論文標題 多様性の概念とソーシャルワーク教育	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 地域連携 入退院と在宅支援	6. 最初と最後の頁 79-81
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 齊藤隆之	4. 巻 Vol.13, No.4
2. 論文標題 「連携」をソーシャルワークの視点から学ぶ	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 地域連携 入退院と在宅支援	6. 最初と最後の頁 109-112
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 齊藤隆之	4. 巻 Vol.13, No.5
2. 論文標題 地域共生社会とソーシャルワーク教育	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 地域連携 入退院と在宅支援	6. 最初と最後の頁 103-107
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小玉幸助, 森谷就慶, 大竹伸治	4. 巻 17・18合併号
2. 論文標題 (資料)産業保健領域と精神保健福祉士 - 精神保健福祉士に関する研究動向：産業精神保健福祉領域の発展を目指して -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東北文化学園大学医療福祉学部保健福祉学科紀要「保健福祉学研究」	6. 最初と最後の頁 65-75
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 尾形 倫明, 千葉 宏毅, 三澤 仁平, たら澤 邦男, 森谷 就慶, 太田 一樹, 伊藤 道哉, 濃沼 信夫	4. 巻 Vol.56Suppl
2. 論文標題 対人援助研修を受講したエンドオブライフケア提供者のターミナルケア態度に関する効果	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本医療・病院管理学会誌	6. 最初と最後の頁 301 - 301
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 たら澤 邦男, 藤森 研司	4. 巻 31(1)
2. 論文標題 広域抗菌薬使用時の血液培養実施率に関連する要因に関する研究 DPCデータを用いた臨床指標の構築と評価	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 診療情報管理	6. 最初と最後の頁 21-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kenmyo Sugiyama, Toru Tsuboya, Taketoshi Okita, Naho Tsuchiya, Kunio Tarasawa, Tomoaki Ogata, Shintaro Yanaka and Akio Tomoda	4. 巻 3(2)
2. 論文標題 Residents in a Remote Island Having Family Members in Distant Areas Showed Higher Preference for Place of End-of-Life Care: The Ajishima Study	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 JMA Journal	6. 最初と最後の頁 138-145
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.31662/jmaj.2019-0026	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 藤森 研司, たら澤 邦男, 中藤 真一	4. 巻 5(2)
2. 論文標題 骨粗鬆症治療薬の継続率、遵守率の分析における電子レセプトデータベースの活用	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本骨粗鬆症学会雑誌	6. 最初と最後の頁 277-285
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤森 研司, たら澤 邦男, 中藤 真一	4. 巻 5(3)
2. 論文標題 電子レセプトデータベースを用いた骨粗鬆症治療薬の薬剤変更による継続率、遵守率の検討	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本骨粗鬆症学会雑誌	6. 最初と最後の頁 461-470
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤森 研司, たら澤 邦男, 中藤 真一	4. 巻 6(1)
2. 論文標題 電子レセプトデータベースを用いた骨粗鬆症治療薬の大腿骨近位部骨折予防効果の検討	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本骨粗鬆症学会雑誌	6. 最初と最後の頁 25-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 長谷川 高志, たら澤 邦男	4. 巻 15(2)
2. 論文標題 遠隔医療の臨床評価と政策的活用手段の検討	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本遠隔医療学会雑誌	6. 最初と最後の頁 104-107
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 齊藤隆之	4. 巻 58
2. 論文標題 身体障害者の性生活支援における基礎的考察	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 福島学院大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 20-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Chiba Hiroki, Ogata Tomoaki, Ito Michiya, Kaneko Sayuri	4. 巻 Aug;245(4)
2. 論文標題 Identification of Topics Explained by Home Doctors to Family Caregivers with Cancer Patients Died at Home: A Quantitative Text Analysis of Actual Speech in All Visits	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 The Tohoku Journal of Experimental Medicine	6. 最初と最後の頁 251-261
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1620/tjem.245.251	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 たら澤邦男、尾形倫明	4. 巻 58巻9号
2. 論文標題 3. 病院勤務医を対象とした医師事務作業補助業務による労働負担軽減に関する研究	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 4. 医療の広場	6. 最初と最後の頁 21-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 たら澤邦男	4. 巻 100巻9号
2. 論文標題 【遠隔医療】 トピック 平成30年度診療報酬改定に関して(遠隔医療分野)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 治療	6. 最初と最後の頁 1076-1079
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 たら澤邦男、藤森研司、伏見清秀	4. 巻 19巻3号
2. 論文標題 入院前の在宅医療の有無からみたがんによる病院死の比較検証 DPCデータを用いた膀胱がん症例の治療内容と死亡までの期間	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本医療マネジメント学会雑誌	6. 最初と最後の頁 145-150
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計18件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 濃沼 信夫、尾形 倫明、伊藤 道哉、ほか
2. 発表標題 ポリファーマシー対策による医療の質と安全の向上
3. 学会等名 第63回日本老年医学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 千葉 宏毅, 守屋 利佳, 尾形 倫明, ほか
2. 発表標題 エンド・オブ・ライフケアに関わる専門職を対象としたコミュニケーション研修前後の会話変化と患者評価に関する研究
3. 学会等名 第13回日本ヘルスコミュニケーション学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 伊藤 道哉, 尾形 倫明, 千葉 宏毅
2. 発表標題 日本ALS協会会員対象ニーズ調査における筋萎縮性側索硬化症患者の悩みと期待
3. 学会等名 第59回日本医療・病院管理学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 尾形 倫明, 千葉 宏毅, たら澤 邦男, ほか
2. 発表標題 対人援助研修を受講したエンドオブライフケア提供者のターミナルケア態度に関する効果(その2)
3. 学会等名 第59回日本医療・病院管理学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 たら澤邦男, 尾形倫明, 森谷就慶, 千葉宏毅
2. 発表標題 NDB集計データと公開データを併用したがん患者の都道府県別在宅看取り割合と医療資源等との関連に関する研究
3. 学会等名 第59回日本医療・病院管理学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 たら澤邦男, 藤森研司
2. 発表標題 NDB集計データと公開データを併用したがん患者の都道府県別在宅看取り割合と医療資源等との関連に関する研究
3. 学会等名 第59回日本医療・病院管理学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 たら澤邦男
2. 発表標題 遠隔医療の診療報酬の現状と課題, 令和2年度診療報酬改定の概要
3. 学会等名 日本遠隔医療学会スプリングカンファレンス(招待講演)(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 矢野恒太, たら澤邦男, 藤森研司, 伏見清秀 他
2. 発表標題 高齢者潰瘍性大腸炎治療指針の検証 診断群分類別包括評価(DPC)データを用いた本邦における高齢者潰瘍性大腸炎治療の現状
3. 学会等名 日本消化管学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 野田由記, たら澤邦男, 藤森研司, 伏見清秀
2. 発表標題 日本における術後せん妄患者に対する薬物療法と精神科医の介入
3. 学会等名 日本精神神経学会
4. 発表年 2020年



1. 発表者名 伊藤 道哉, 尾形 倫明, 千葉 宏毅
2. 発表標題 日本ALS協会会員対象当事者ニーズ調査報告
3. 学会等名 第58回日本医療・病院管理学会学術総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 氏家靖浩, 森谷就慶, 佐々木和
2. 発表標題 学校心理士の特性を活かした教育相談の提案
3. 学会等名 日本学校心理士会2019年度大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 尾形倫明, 千葉宏毅, 三澤仁平, たら澤邦男, 森谷就慶, 太田一樹, 伊藤道哉, 濃沼信夫
2. 発表標題 対人援助研修を受講したエンドオブライフケア提供者のターミナルケア態度に関する効果
3. 学会等名 第57回日本医療・病院管理学会学術総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 たら澤 邦男, 藤森 研司
2. 発表標題 入院前の在宅医療の有無からみた入院患者の特徴と救急車搬入割合 高齢者を対象としたDPCデータ解析
3. 学会等名 日本診療情報管理学会学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 長谷川 高志, たら澤 邦男
2. 発表標題 遠隔医療の臨床評価と政策的活用手段の検討
3. 学会等名 日本遠隔医療学会学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 伊藤 道哉, 尾形 倫明, 千葉 宏毅
2. 発表標題 筋萎縮性側索硬化症(ALS)患者の住まい方に関する質的研究
3. 学会等名 第56回日本医療・病院管理学会学術総会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 伊藤 道哉, 尾形 倫明, 千葉 宏毅
2. 発表標題 筋萎縮性側索硬化症(ALS)患者のアドバンスライフプランニング
3. 学会等名 第20回日本在宅医学会大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 横川裕大, 川副友, たら澤邦男, 藤森研司, 久志本成樹
2. 発表標題 大腸穿孔により敗血症性ショック患者に対する長時間PMX-DHP療法の有効性の検討 DPCデータ解析
3. 学会等名 第29回日本急性血液浄化学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 三尾諒, 藤森研司, たら澤邦男
2. 発表標題 高齢者に対する股関節人工骨頭挿入術の周術期に行われる予防的抗菌薬投与の費用最小化分析
3. 学会等名 第56回日本医療・病院管理学会学術総会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 森谷就慶(分担) 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 中央法規出版	5. 総ページ数 320(230-234)
3. 書名 現代の精神保健の課題と支援 第7章 精神保健に関する発生予防と対策 第10節 災害時の精神保健に対する対策	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	大竹 伸治 (OTAKE Shinji) (40382577)	東北文化学園大学・医療福祉学部・准教授  (31310)	
研究分担者	齊藤 隆之 (Saitou Takayuki) (20550552)	福島学院大学・公私立大学の部局等・准教授  (31605)	
研究分担者	尾形 倫明 (OGATA Tomoaki) (60633675)	東北医科薬科大学・医学部・助教  (31305)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	たら澤 邦男  (TARASAWA Kunio)  (30632806)	東北大学・医学系研究科・講師    (11301)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関